

3月22日

3月19日（金）は、本校の卒業証書授与式を実施しました。

当日は、新型コロナウイルス感染予防のため参列していただいたのは、卒業生とご家族2名及び本校職員とさせていただきました。在校生がいない中での卒業式ではありましたが、卒業生が堂々とした態度で式に臨んでいたため、大変素晴らしい式となりました。

式中に、私から以下のようなことを話しました。

やわらかな日差しに、校庭の桜の花も開き始め、春の訪れを感じるこのよき日に、第62代の卒業生として巣立ち行く106名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さんは、「ピンチはチャンス」という言葉を聞いたことはありますか。

新型コロナウイルスによる感染被害が蔓延し、小学校が臨時休校になるなど、今年度の江戸小は、まさにピンチでした。その後も緊急事態宣言発令などがあり、ピンチの連続でした。そんな中、卒業生のみなさんは、今できることを新たに考え実行していきました。例えば、「江戸フェス2020」、「江戸小TV」「思い出作りプロジェクト」などです。こうした新たな取り組みは、これからの江戸小の教育活動の礎となっていくことでしょう。まさにみなさんの今年度の取り組みは、ピンチをチャンスに変えてくれたのです。

中学校へと巣立っていくみなさんには、これからもいくつもの壁が立ち塞がってくることでしょう。でも不安を感じることはありません。なぜなら、みなさんは、この江戸小で培った「清き心」「強き心」「正しき心」に加え、「ピンチをチャンスにする力」もあるからです。中学校では、さらに自分を高めていってください。

さて、保護者の皆様、長きにわたって、本校の教育にご理解・ご協力いただきましたことに、深く感謝申し上げます。手塩にかけて育てられたお子様の、今日の晴れ姿をご覧になって、さぞかし感慨深いものと拝察しております。どのような時にも、保護者の方だけは支えになってくれる、という安心感ほど、子ども達に勇気を与えてくれるものはありません。これからも温かく、そして時には厳しく、子どもたちの成長を見守っていただきますよう、お願い申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん、なごりはつきませんが、いよいよお別れです。皆さんが健やかに成長し、輝く青春の 때가訪れることを心からお祈りし、式辞といたします。

卒業式の練習の際にも、自分たちでどんな式にしていきたいか考え、課題を自ら見つけ解決していく姿勢が見られました。例年より練習時間は短かったにもかかわらず、一人一人が全力で臨むことができた素晴らしい式になったのも、卒業生のがんばりであるとともに、本校の学校教育目標である「人間性豊かで 主体的に考え行動する子どもの育成」が具現化された姿ではなかったかと思っております。

これもひとえに保護者の皆様、地域の皆様が本校の教育方針に対し温かく御支援いただいていたからこそと思います。本当にありがとうございました。

流山市立江戸川台小学校 校長 上原 和浩